

◎ 拡散させないための再確認ポイント

緊急対応項目	コメント	チェック欄 ✓
DR <u>患者の確認ポイント</u> を迅速に情報収集し感染制御部から第1報を病院長に感染制御部医師から報告		
DR <u>同室患者の各診療科・病棟医長</u> に状況報告を行う		
NS 看護部と病棟師長へ状況報告を行う		
DR NS 同室患者は全員濃厚接触扱い。 <u>至急、検査を行う</u>		
DR NS 発熱や咳、咽頭痛など、症状のある同フロア職員と入院患者については、 <u>至急、検査を行う</u>		
NS 同室者をそれぞれ個室へ隔離し、PPEを指示		
NS 陽性者は東病棟2階へ転棟を依頼（陽性者多数の場合は、症状やエアゾル発生手技に応じてE2へ転棟）		
NS 総室の患者が陽性になれば、一時的に共通のシャワー室の使用を禁止する		
NS 陽性患者が接触した可能性のある共通接触部位をアルコールにて清拭・消毒する		
NS 必要に応じてゾーニングを実施、陽性患者と濃厚接触者、それ以外の患者が使用するトイレを分ける		
DR 初発患者、及び同室患者の情報収集 至急実施し会議資料を作成する （感染制御部 医師が担当；感染拡大範囲を想定するのに重要な作業） 1）発症日と入院経過 2）家族内の新型コロナ感染者（疑いも含む） 3）病棟内の行動範囲（他者との会話、病棟内のADL等） 4）エアゾル発生手技 有無 5）使用トイレとシャワー室使用有無 6）病棟患者・職員の体調不良者数の把握		
NS 濃厚接触者情報収集を至急実施し会議資料を作成する （感染制御部 看護師が担当；感染ルートの想定で重要な作業） 1）患者発症日を0日として、過去5日間に遡り濃厚接触者を洗い出す（感染源の検索） 2）該当患者の感染可能期間 48時間以内 に濃厚接触した者を洗い出す 3）病棟患者・職員の体調不良者の氏名・詳細につき情報収集を行う 4）感染制御部内で協議し1）～3）の検査を実施する		

◎ NS 患者の確認ポイント

項目		チェック欄 ✓
入院日を1日目として3日目までの判明である（持ち込み可能性 大）		
入院日を1日目として4日目以降の判明である		
入院患者で同じ病室の体調不良有無と同じフロアの新規症状出現者の有無		
フロア勤務スタッフのコロナ流行状況と体調不良者の確認		
患者は部屋で概ね過ごし、他の患者接触・濃厚接触はない		
家族・同居人や接触者でCOVID-19患者はいないか		
食前食後の手洗い、トイレ使用前後の手指消毒を行っている。		
症状が出現してからはサージカルマスクを装着している。		
共通トイレの使用はあるか		
エアゾル発生手技はしていないか		
シャワー室使用しているか		
発症5日前に遡って、面会を行っていないか		
口腔ケアを実施しているか		
リハを実施しているか		
病棟歩行や院内の共有機器を利用しているか		
他の入院患者とはソーシャルディスタンス（1m以上）を可能な場面では確保し、大声を発する機会を控える。		
マスク着用は必ず実施している。		

○ 患者と職員スクリーニング実施の目安は緊急会議で決定

原則			チェック欄 ✓
初発患者が3日以内の発症、かつ同室濃厚接触者の範囲で感染がコントロール出来ている状況内			
フロアー斉のスクリーニング実施は積極的には検討しない			
4日以上入院歴のある患者が初発の場合、または3日以内の発症でも他病室で陽性が発覚した場合			
フロアー斉のスクリーニング実施を積極的に検討			
○ 職員			
原則、患者スクリーニング開始にあわせ職員も開始。勤務は陰性を確認して実施			
職員スタッフクラスターが予想される場合は、すみやかに全職員実施			
○ 全般			
感染拡大防止策	ポスターを活用し個々の患者に、手洗い促進・手指消毒指導を行っている。		
	クラスター発生時は、毎日新しいマスクを配布し、着脱を正しく指導する。		
	廊下の手すりやドアノブ、共有パソコンなど、高頻度接触面の消毒		
	感染者、濃厚接触者、それ以外の患者の使用スペース、動線も分けている。		
	防護具を外す際に暴露に注意し、一つの防護具を外すたびに手指消毒をしている		
	職員の休憩場所の消毒、換気、リネンの対策を実施している。		
	食事は黙食とし、食事後にはマスクを着用する。		
健康管理	有症状の職員は確実に休ませる。		
	症状出現時は速やかに検査を実施する。		